

# 繋 谷地南部っ子

令和6年度 学校便り  
R6. 9. 13  
NO 13  
校長 秋場 一憲

経営キーワード「一步踏み出す力（主体性）」「チーム力（協働・対話）」「考え抜く力（解決・創造）」

## 「防災の日」について考える

～ 過去の災害から学び、試行錯誤しながら「尊い命」を守る ～

ご存じのとおり、毎年9月1日を「防災の日」とし、各地で防災訓練等が実施されています。本校でも翌2日（月）に、地震発生を想定した避難訓練を実施しました。何が起きたのか、どこへ避難すればいいのか等を放送から聴き取り、どこを通過して避難するかを自分で考え、判断し、安全に避難することがねらいです。全員避難が完了し、教職員からすべての報告を受け終わるまでに要した時間は、約3分間。これまで繰り返し取り組んできた成果が表れていると思います。

その講話の中で、101年前の大正12年に発生した「関東大震災」の被害状況や、その後に発生した朝鮮人虐殺という悲劇についても触れました。最も大切な命を守る学習の一つである「非常災害等発生時の避難訓練」については、いつでも通用するマニュアルは無く、試行錯誤の繰り返しです。過去の災害と当時の人々が身を守るためにとった行動や、逆に尊い命を失ってしまった要因等から学ぶという姿勢を大切に、これからも子供たちとともに「命の尊さと命を守る行動」について考えていきたいと思っています。



関東大震災の惨状（神奈川県横浜市中区）

## バーチャルでは無い、リアルな感動を味わう ～町芸術鑑賞教室～



代表して6年 石森愛響さんがお礼の挨拶

9月10日（火）に、サハトベに花を会場に町小学校芸術鑑賞教室が開催されました。今年度は、劇団ポプラの皆さんによるミュージカル「宝島」を鑑賞しました。ワクワクドキドキの展開にハラハラしながらも、子供たちはどっぷりと物語の世界に浸っていました。

テレビやタブレット、スマートフォン等の普及により、私たちはいつでも、どこでも手軽に画面を通じて映像等を味わうことができます。けれども、立体感や空気感、そして五感で味わう生の感動は、今回のような教室でしか味わえず、鮮明な記憶として子供たちの頭と心に残っていくものと思います。

## 子供たちの力作を鑑賞し合いました

夏休み明けの初日、多くの子供たちが大きな手荷物を抱えて登校しました。中身は、夏休み中に作ってきた素敵な作品です。色使いや材料の工夫など、子供たち一人一人の思いやアイデアが溢れ出ており、思わず立ち止まって細部まで見入ってしまいました。各学年とも互いの作品を鑑賞し、良さを味わいました。



各学年の展示コーナー（1年・4年）



# 若手教職員と共に成長する ～ 第2弾 ～

学校だより第10号からスタートした「若手教職員と共に成長する・若手教職員紹介」シリーズ第2弾の今号では、白田 実 教諭を紹介します。昨年度新採教員として本校に赴任し、県の新採教員支援事業の下、校外で多くの研修を積み重ねてきました。2年目となる今年度は、4年担任のほかに音楽主任と通学班の登下校安全指導を担っていただいています。

## — 白田 実 教諭：明るい笑顔と気遣いが魅力 —

白田 実 教諭の持ち味は、「明るい笑顔と優しさ」です。授業のほか学年の活動、そして日常の子供たちとの会話や指導の中で、常に笑顔が絶えません。そのため、学年経営が明るく穏やかに進められ、子供たちも遠慮なく話しかけたり相談したりしています。また、説明や指示等を行う場合、担任が自分の思いや考えを一方向的に伝えるのではなく、子供たちに確認し丁寧に行っているほか、しっかりと理解されなかった時には素直に謝る謙虚さも持ち合わせています。そんな子供たちファーストの気遣いが素晴らしいと思っています。



子供たちに寄り添い、考えを見取る

### 【白田 教諭にインタビュー】

Q 教諭を志した理由は？

A 家族や親戚に教員が多く、困ったときや辛いときなどに助けを求めやすいと思ったからです。

Q 谷地南部っ子の良さは？

A 自分の考えを持っている子どもが多いことです。(授業や委員会活動、学校行事等での企画力・実行力等)

Q 2学期以降にがんばりたいことは？

A 子どもが「やりたい」と思ったことをできる限り実現できるように支援していきたいと考えています。

Q 仕事を進めている中で、働き甲斐や生き甲斐を感じるのは、どんな時か？

A 子供たちが、これまで難しかったことができるようになったり新しい発見をしたりと、成長する姿を見た時です。



2学期始業式での校歌斉唱

2年目となり、大切な校務分掌も担っていただいています。ご自身が楽器演奏を楽しんでいるという強みを生かし、音楽主任として、入学式や各学期始業式等で校歌を斉唱する際の指導と指揮を行っています。1年生を筆頭に元気な声で歌っています。

また、日頃の通学班による登下校については、通学班長への定期的な指導のほか、子供たちからの情報収集や工事等に際しての臨時的な安全指導を丁寧に行っています。そのお陰で、登下校時の事故は1件も発生していません。(校長)

## 第3回校内授業研究会で確認したこと・今後活かしていきたいこと

白田教諭が、算数科の授業を提案しました。「2桁÷2桁」の筆算で、仮の商が大きい時は商を小さくして計算すればよいことを理解させます。子供たちは、「あれっ、計算できない。」「商を小さくすればいいんじゃない。」など試行錯誤しながら粘り強く問題を解き、さらに複数の問題を解くことで確実な理解に繋がりました。村山教育事務所指導主事より、

◆答えだけを評価するのではなく、過程も含めて評価する。

◆子供たち一人一人に応じた指導・支援を充実させる。

などのご指導をいただきました。特に、答えや結果だけを評価するのではなく「過程を見取りしっかりと評価する」ことで、子供たちの自己肯定感を向上させ、どんな課題と直面しても「しなやかに」解決しようとする態度の育成に繋がると思いました。



計算結果や考え方を交流